

大橋さん 小学校で「日本鬼子」と言われ、父が日本人だと知るようになった。なんで父が日本人なんだろうと悔しかった。

山崎さん 父方の祖母が日本人、父からはそのことを聞いたことがない。中国に残留した話については、祖母の家に行って、祖母と父と3人でご飯を食べるときに、ちょっと聞くというふうなことで、父には聞きづらい。一つは、辛かった記憶を呼び起こしてしまふかなというのと、父は28歳のときに日本に帰ってきたが、ずっと工場で働きづめ、しかも私費で帰ってきたので日本語を学ぶことがなく、約40年間、日本で暮らしても日本語を自由に使うことができない。私も簡単な中国語しかできないから、複雑なお互いやり取りができないので、父の生い立ちなど歴史に関係することは直接聞いていない。



日本に帰ることになった経緯、その時どう思いましたか？

石井さん 72年、日本と中国の国交が正常化され、大使館ができ、母は日本の家族と連絡が取れた。帰国申請をしたが保証人の問題で時間がかかった。尼崎に住む母の妹の夫が保証人になってくれて、79年12月、両親と3人で帰国し、それから、妹、弟の順で帰国した。帰国までに5年かかった。両親は帰国のためのお金は家のものなどを売り自分で工面した。

下平淑子さん 結婚し娘たちに恵まれて、子どもたちのために日本に帰ろうと思った。私の家族(母と弟)が最初に帰国した時には、自分でお金を工面して帰ってきたけど、帰国後、母と弟家族だけが国費帰国(弟は同伴家族扱い、1家族のみ)という形で国(日本政府)から費用が支給された。

下平鳳子さん 日中国交正常化で父が弟を連れて長野に里帰りし親戚に会った。しかし、養母や妻子がいるから帰国を一旦断念した。13年後に身元保証人が見つかり帰国した。私の家族は先に帰国した父母からの呼び寄せで帰国した。費用は自分で貯めたお金とか財産を処分し、それに母たちが支援してくれた。

大橋さん 文化大革命のとき、日本人は侵略者であったため弾圧を受けた。父も嫌がらせを受け仕事をなく

し、生きるすがたがたれた。日本に帰れば政治的な抑圧もなく、子どもたちは、自分が選んだ道に進むことができると思ひ、父は家族全員を連れて日本に帰ることを決めた。

日本へ帰って来て、困った事がたくさんあったと思います。一番困ったことは？

石井さん 一番困ったのはやっぱり言葉。日本語がわからないから仕事ができない。それが一番の問題だった。日本語の勉強をする所もなく、日本語がわからないまま仕事をし、だんだん覚えた。帰国しやすくはプラスチック工場に働いた。その頃尼崎の夜間中学に通った。その後東京で叔父の貿易の仕事を手伝った。尼崎に住んでいた両親の体が弱くなり、僕が尼崎に帰り、一番下の弟が東京で貿易の仕事をやっている。尼崎に帰ってからは物流の会社で仕事に就き、定年になり現在に至っている。

下平鳳子さん 辛くて、困ったことはたくさんある。言葉がわからず帰国して子供が生まれ、病気になるたとき困った。日本語ができる父が病院に連れて行って通訳してくれた。日本へ来て、2年位働いて、その後妊娠し、会社をやって暫く家に居て、家の事をやっていた。家政婦みたいな仕事でもやるうと思っていたが、次男が1歳半位になった頃、私がかかり留守にするのを嫌がって、住んでいた家の下の会社が「うちで働けます」と言ってくれたので、その会社に入り、何年かそのまま働き、その後、2008年頃2世の人たちといっしょにヘルパーの資格を取った。支援者からの紹介でデイ・サービスの仕事をするようになり今もその仕事をしている。

下平淑子さん 皆さんと同じで言葉でかなり苦労した。長女が先天性の心臓病で、病院では日本語がわからなかった。それと同じ頃に母が病氣

## 対談・交流

### 大橋晴美さんと尼崎市近郊在住の中国残留日本人2世の皆さん



#### プロフィール

石井一郎 1948年8月、瀋陽に生まれ、1年も経たないうちに天津に転居した。宮崎県出身の祖父が中国鞍山の製鋼所に派遣されたため、家族で戦前の中国に渡り、そこで母が生まれ育った。母は18歳の時に中国人の父と結婚。石井さんは3人兄妹の長男として生まれた。

下平鳳子 62年5月17日、瀋陽で中国残留孤児の父と中国人の母の間の3人兄妹の長女として生まれた。

大橋春美 70年瀋陽で中国残留日本人の父と中国人の母との

間の4人兄妹の末っ子として生まれた。「まわりを明るく華やかに彩る春の花のように」との願いを込めて「趙春艶」と名付けられた。

下平淑子 53年5月、瀋陽生まれ。母は仕立ての技術を生かして勤労奉仕隊として開拓団に一人で参加した。私は敗戦直後の悲惨な状況をかろうじて生き残った母(長野県出身)と中国人の父との間に生まれた。父は4歳の時に亡くなったのでよく覚えていない。



親が日本人だということを知り、どう思ったか？

石井さん 小さい頃から自分が日本人の子もだということは知っていたが、そのために周りからいじめられたことや困ったことはなかった。父が国民党の出身だったので文化大革命のとき、毎日のように愛国の勉強をさせられた。

下平鳳子さん 中学2年か3年のとき、友達の家遊びに行くととき、その家の母親に父が日本人だと聞かされた。家に帰って祖母に尋ねると、「瀋陽の難民所でやせ細ってかわいそうだった父を連れて帰って育てた」ということだった。その時は驚いたが、いじめなどはなく、その後も普通に過ごした。

下平淑子さん 周りに開拓団の人たちが多かったので、小さいころから知っていた。当たり前のよう